

朝本さんと初めて知り合ったのは今から 12～13 年前のこと。

当時、朝本さんはバリを拠点に国際的に活躍されていて、時々ご実家のあるこの港町に帰省されていました。

港町の病院で一緒にコンサートに出演したり、飲み屋さんで同じテーブルについてお酒を飲んだり。またある時には、ご病気であった朝本さんのお父様を、私が訪問診療して在宅でお看取りをさせていただきました。でも、世界を股にかけて活躍されていた朝本さんは、私にとって、ただ憧れの、遠い存在でした。

朝本さんが拠点をこの港町に移されたのは、この 5-6 年のこと。

市内の中学校吹奏楽部への楽器の寄付を目的としたチャリティコンサート「港音楽祭」をはじめられたのも、ちょうど同じ頃だったと思います。東京とこの町を行き来しながら、音楽活動を続けて来られました。

そして、この港町に私たちのクリニックが開院したのも、5 年前。

朝本さんが時々当院を受診され、クリニックの看護師の Yくんが朝本さんに弟子入りして、サクスを始めました。朝本さんはクリニックのコンサートにも出演して下さるようになり、初心者ばかりの「クリニックバンド」の監修もしていただきました。

朝本さんが、この学会の懇親会での演奏を引き受けてくださった時、やりとりの中で書かれていたのは、「まずは自分の近くの人たちから音楽でハッピーにしたい」ということ。

実際に、この港町に住む人たちは、私たちのクリニックに限らず、事あるごとに朝本さんとそのお仲間の音楽に触れられて、幸せを感じています。ある時は市民ホールの舞台上。またある時は、近所のピザ屋さんで。

世界を股にかけて活躍されていた朝本さんが、この半島の突端の小さな町で音楽をやっという決められたのには、特別な思いがあったのだと思います。それを私は、先日のライブでの朝本さんの「Imagine」を聴いて、強く感じました。一番心が震えた演奏でした。

そんな朝本さんにご縁をいただいた、今回のプライマリ・ケア学会。どんな意味があるんだろう…？

気がついたのは、私たち、「やろうとしていることが同じ。」ということ。

「地域の人たちを、ハッピーにしたい」と思って、仕事をしている。私たちも。手段が違うだけ。朝本さんは、音楽を通じて。私たちは、医療を通じて。

一人ひとりが働きかけている地域は、狭くて小さい。けれども、その地域がハッピーになり、隣にいるこの人の地域もハッピーになり、懇親会に参加している皆の地域がハッピーになり…そんな地域が全国に広がれば、日本全国がハッピーになる。世界中がそうであれば、世界中がハッピーになる。

I'm not the only one,

そんな感覚を、音楽で体験できるような懇親会になれば…